

後援会だより

札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌

Vol.40

発行／札幌大学後援会事務局 発行日／2013年3月30日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) <http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai>

気持ちの面で他に負けないチームをつくり、 伝統と実績を次世代に渡していきたい!

札幌大学バスケットボール部は開学とともに創部された歴史と伝統ある強豪チームです。華々しい活躍を続ける女子チームの4名の部員、ヘッドコーチ、さらに顧問の先生に、チームの強さの秘密や練習の様子、近況について伺いました。

女子バスケットボール部	1面
札幌大学学生会社説明会・就職活動報告	2面
STVカップレディーススキージャンプ競技大会優勝! 山口瑞貴さん	
卒業生の声	3面
後援会長あいさつ・海外研修報告・資格試験合格者の声・編集後記	4面



バスケットを始めたのは
何時頃ですか。
またポジションは?

札大女子バスケットは三で表現すると、
どんなチームですか?

ポイントガードです。

脇坂 私は小学校3年生からバスケットをやっています。実は高校を卒業したらバスケットから離れようと思っていたんですが、怪我をしてしまつて完全燃焼できませんでした。それで、大学でもう一度プレーしたいと思い、入部しました。ポジションはフォワードで、現在は主将も務めています。

脇坂 伝統のあるチームで、優勝経験も豊富。その栄光を守らなければならぬというプレッシャーもありますが、自分たちの良さを見失わないで、後輩に引き継いでいきたいと思っています。チームカラーの「攻めのデیفエンス」に磨きをかけています。



文化学部文化学科1年生
檜森 彩花さん

練習も厳しいようですが、
部の雰囲気はどんな感じですか?

林郷 私は小学校4年生の時、友人も皆やっていたことから、バスケットに興味を持ちました。私もパワーフォワード。

脇坂 私はキャプテンとして、一人ひとりの個性を尊重して、注意の仕方や指導方法を変えるようにしています。勝ちたいという気持ちは一緒なので、どうやったら皆が効果良く練習できるか、監督やコーチと話し合い工夫して練習しています。

脇坂 私は小学校4年生から始めました。地元の隣町、能代市はバスケットが盛んで、私もその影響を受けました。ポジションは

脇坂 私は小学校4年生の時、友人も皆やっていたことから、バスケットに興味を持ちました。私もパワーフォワード。



文化学部文化学科3年生
脇坂 葉月さん



経営学部経営学科3年生
高橋 瞳さん



文化学部文化学科2年生
林郷 有沙さん

課外活動の環境として見た
バスケット部の雰囲気はどうですか?

脇坂 オンオフの切り替えを大切にしています。練習するときは真剣に集中して、練習終了後のオフは、先輩後輩の垣根をなくして、一緒にご飯を食べに行ったりするなど楽しく過ごそうにしています。プライベートでも、これだけ仲の良いチームは他にないと思っています。

今後の目標を教えてください。

脇坂 インカレの1回戦突破が最大の目標です。技術や体力で劣つていても、二所懸命にボールを追う姿勢だけは負けたくないと思っています。昨年愛知の強豪チームと前半は互角の勝負ができていたので、気持ちを切らさず、最後まで全力でコート駆け回りたいと思っています。

「デیفエンスからゲームを組み立てるチームづくり」を目指して



女子バスケットボール部ヘッドコーチ
泉 春美さん

私は学生時代に札幌大学女子短期大学部でバスケットに打ち込み、卒業後は実業団で3年間、選手としてプレーしました。現役引退後も会社に勤務しながらコーチとしてチームをサポートしてきましたが、母校札幌大学から思わぬ依頼が。以前の顧問の倉島先生から「後輩を指導してほしい」という大変光栄なお話をいただき、2003年より女子チームのヘッドコーチを務めさせていただいています。現在、札幌大学女子バスケットチームは春・秋の大学選手権や国体北海道予選などで連覇を達成。道内大学女子では自他ともにトップクラスの実力と成績を有しています。北海道代表として毎年インカレにも出場していますが、関東・関西の強豪の壁は厚く1回戦突破が当面の目標となっています。現在は基礎体力の向上を目指し、ウエイトトレーニングを中心に、先ずは当たり負けをしない体づくりと持久力のアップに励んでいます。札大女子バスケットチームカラーを言葉で表現するなら「徹底したデیفエンスからゲームを組み立てるチーム」であること。身長などフィジカルな面でハンディもありますが、選手には「自分たちの得意とする力をもっと伸ばすことで、強豪と対等に闘つていこう」と日頃から話し合っています。また、全国遠征には後援会様より多大なバックアップをいただき、思う存分試合に集中できる環境を整えていただいている事への感謝も、部員一同、忘れてはいません。選手である前に一人の人間として成長していくことを、私たちは最大の目標としています。

正しく保つこと、保護者の皆様への感謝を含め、学生生活の心得や目標について、日頃から話し合っています。体力づくりや技術だけでなく、一人の人間として学生と向き合い、指導していくことが私の使命と感じていますので、今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

学生の自分をわきまえながら、
青春の1ページを燃焼してほしい



経営学部准教授
男子・女子バスケットボール部顧問
山本 裕一さん

バスケットボール部は、札大の開学とともに倉島先生を顧問として創部されました。倉島先生からバトンを引き継ぎ、私が顧問に就任したのは2008年、それから早や5年の歳月が経過しました。2008年は、課外活動特待生制度実施の初年度でもあり、以来チームは着実に強化されてきています。

私はバスケットボールの経験はありませんが、大学時代に器械体操の選手だったこと、また器械体操の指導経験もあることから、スポーツに対する理解があるという理由で、顧問を依頼されたようです。一方、その頃の私は年齢的に学生との距離を感じるようになっていましたので、顧問を引き受けることによつてその距離感を縮めたいという気持ちがありました。バスケット部は毎年インカレに出場する強豪チームであり、倉島先生が築いてこられた実績を汚せないというプレッシャーを感じながらも、引き受けたからにはできる限りのことを精一杯やろうと決心しました。私の役割は、バスケットを本職とする次の顧問が見つかるまでの中継ぎと認識していましたから、これまで一番気を付けてきたのは、学生に不祥事を起こさせないことです。大会での華やかな活躍も、学生としての自分を全うできないければ仇花となる他なく、何よりも土台部分の堅牢化が最優先事項だと考えているからです。結果ばかりではなく、過程も大切にしようという方針から、練習や試合には立ち会っていますが、指導についてはコーチやトレーナーに任せています。学生の皆さんには、学生であることを忘れず、4年間の学業を通して立派な社会人となることこそ第一義と肝に銘じ、その上でバスケットボールというスポーツを通じ、青春を燃焼させてほしいと願っています。

なお、後援会の皆様には日頃はもちろん、全国大会出場に際しても多大なご支援を賜っております。この場を借りて、衷心よりお礼申し上げます。大学や保護者の皆様との連携もさらに密にし、ともに部の発展に尽力してまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

就職の強い味方、キャリアサポートセンターをご利用ください！

札幌大学では正課、課外を通じて学生を育成し、将来のビジョン実現を支援するため、キャリアサポートセンターを設置しています。同センターでは今回の会社説明会のほかに、キャリア形成に欠かせないさまざまなプログラムを実施していますので、学生はもちろん、保護者の皆様も気軽にお立ち寄りいただき、有効に利用していただきたいと思います。

■キャリアサポートセンター概要

利用時間／平日9:00～18:00 土曜日9:00～12:00

・主な活動内容

1『就職関連情報の提供』

2『札幌大学総合学生支援システム「アイトス」の運用』

3『インターネット利用』

4『就職関連行事、講座の開催』

●個人面談 ●就職講座

●内定者就職活動体験報告

●OB・OG業界説明会 ●学内説明会

●模擬面接 ●模擬試験

5『キャリアカウンセラーの利用』

「就職戦線を有利に展開し、内定獲得を目指す活動が、いよいよスタート！」

●日時／2013年2月7日（木）・8日（金） 13:00～17:00

●場所／札幌大学第一体育館、第二体育館



「札幌大学会社説明会」開催レポート

厳しいと言われる就職戦線を有利に乗り切るため、札幌大学では約160社の優良企業・団体に参加していただき、会社説明会を開催しました。大勢の学生が集い、有意義な2日間となった説明会についてレポートします。

会場となった二つの体育館には、2日間で約160の企業・団体がブースを開設。プロジェクター等を使用しながら、担当者が自社の概要と事業について説明を行います。参加した学生は興味のある企業のブースに着席し、担当者の説明に聞き入ります。社会人としてのキャリアや人生設計を考慮しながら、学生も企業選びに真剣な表情です。また、単に説明を聞くだけでなく、入社を希望している会社に対しては、自らを積極的にアピールする姿勢も必要です。企業の人事担当の皆様は、説明の最中だけでなく、会場内に集まった学生の何気ない立ち居振る舞いにもチェックを入れているもの。選考は既に始まっていることなど、ご子息、ご令嬢へのアドバイスをお願います。学生は今後、さらに情報収集を続け、希望の業種、職種を絞り込んでいかなければなりません。志望先を決めたらエントリーシートを作成し、実際に応募。その後、入社試験や面接に臨んでいくというスケジュールとなっています。

札幌大学は、今回の説明会をはじめ、全力で学生の就職活動をサポートしており、さまざま不明な点や要望があれば、遠慮なくお問い合わせてください。



直撃インタビュー

大学の手厚いサポートに感謝しつつ、社交性をアピールして、内定を獲得したい

私は、講義への出席など勉強はもちろん、学外の草野球チームで汗を流すなど課外活動やアルバイトにも精を出してきました。人と接するのが好きで、先生や先輩、後輩など、さまざまな年齢層の方と交流を持ち、学生生活を満喫してきましたので、社交性には自信があります。それだけに、仕事も机に向かうばかりの事務ではなく、営業職を希望しています。まだ具体的に業種を絞り込んでいるわけではありませんが、何か悩むことや困ったことがあれば、大学のキャリアサポートセンターなどを頼りに、いろいろ相談に乗っていただこうと思っています。札幌大学は学生に対し、親身になって手厚いバックアップをしてくださるので、心強いですね。希望の就職も必ず実現できると思っています。



文化学部文化学科3年生
松岡 健太郎さん

好奇心旺盛な私は、いろいろな刺激を受けられる就職活動自体も楽しんでいきます

新聞やテレビなど、さまざまなメディアで、今年も就職が厳しいという報道がありますが、私は就職活動自体を楽しみたいと思っています。それと言うのも私は好奇心旺盛なタイプで、いろいろなことに興味を持ち、飛び込んでいく積極性があり、そこを就職活動でもセールスポイントにしていこうと思っています。ですから、今はいろいろな企業のお話を聞くのが楽しいですね。どの業種や職種に対しても先入観や勝手なイメージは抱かないようにしていますので、幅広い視野を持つて企業選択をしたいと思っています。最終的には自分が納得し、惚れ込んだ企業に就職したいですね。社会への憧れと期待もありますが、今は早く内定を獲得し、残りの学生生活を楽しむことも目標の一つにしています。



経営学部経営学科3年生
朝倉 未歩さん

就職活動報告

私は、就職活動を始めるにあたり本当に職に就きたい業界だけに絞り就職活動を開始しました。

これには二つ自分なりの理由があります。

一つは、本当に職に就きたい業界だと自分がこの業界（企業）で何がしたいのかがイメージできた、就職活動にやる気が起き、これによりエントリーシートを書く際や面接で自分の言いたいことが自信を持ってはつきり書けたり言えたりすることが出来ると考えたからです。

二つ目は、内容の濃い就職活動を行いたいと思ったからです。

なぜかという、たくさん業種や企業を受けすぎると、同時に企業に提出するエントリーシートを書くことが増え、その結果、締め切り間に合わなかったり、内容が薄いエントリーシートになってしまう可能性があったからです。このやり方を実践することで、一社一社のエントリーシートに集中でき、時間をかけてじっくりいいものを作り上げ、面接の時も事前の準備時間が多く得られ、集中できると考えていました。

ただ、一番始めに受けた企業の面接で、緊張のあまり体が震え、自分の言いたいことがまったく言えず、残念な結果となりました。しかし、この失敗から得たものは大きく、自分自身の面接での考え方が大きく変わりました。まず、面接に慣れるために大学内にあるキャリアサポートセンターに通い就職支援の先生方と面接練習を行いました。また、面接ではいかに緊張を抑えて自分をコントロールし、考えをはっきり言えるかというのがカギになると考え「緊張しているのは自分だけじゃない」とこで緊張していたらみんなと同じだ」と自分に言い聞かせることにより緊張を抑えることが出来ました。この結果、この失敗の後に受けた旅行会社のHISさん、JR北海道さん2社から内定を頂くことが出来ました。

私は、幼いころからJRで電車の運転士になりたいということが夢でした。

JR北海道さんを就職先に選んだ理由もこの「幼いころからの夢」というのが大きかったです。夢を叶えるスタートラインに立ったこれからが勝負だと思います。幼いころの憧れ、そして夢であった電車の運転士という職業を、次は自分が子どもたちに与えられるような運転士になれるよう頑張っていきたいと思っています。



北海道旅客鉄道 ドライバーコース内定
経営学部経営学科4年生
佐々木 大貴さん

私は昨年の8月に北海道警察から合格を頂きました。小学生の頃から刑事ドラマに影響を受け、将来は警察官として多くの人を守りたいと思い志望しました。

警察官になるためには早めの準備が必要だと思います。1年生の頃から大学で定期的に行われている北海道警察や警視庁の説明会に参加したり、市販の問題集を用いて少しずつ勉強をしていきました。

だが、独学だけでは不十分だと思い、3年生からは大学の能力開発センターで行われている公務員受験対策講座を受講しました。講義を受けてからは問題の解き方や試験勉強の進め方について、分かり易く教えていただいたことにより、試験勉強に対する不安を解消することができました。3年生の冬からは部活と両立しながら試験勉強が本格化していき、一次試験までの3ヶ月間、毎日コツコツと継続してきたことにより結果が出たと思います。

民間企業での就活を行っていなかったため、2次試験の面接試験に不安がありました。だが、キャリアサポートセンターや予備校での面接練習を何度も行い、想定される質問全てに対して答えることができるように準備したことによって、自信を持つことができました。また、北海道警察より先に行われた警視庁の面接試験を経験したことによって、実際の面接の雰囲気分かり、北海道警察の面接試験では落ち着いて挑むことができました。



北海道警察内定
法学部法学科4年生
嘉数 淳希さん

もっと高く、もっと遠くへ。世界の空を翔る女子大生！

山口さんがスキージャンプに目覚めたのは幼稚園の時、長野オリンピックをテレビで見たことから。「大空に人が飛び立つ姿に衝撃を受けました」。その時見たのは、もちろん男子の試合。まだ女子ジャンプは競技人口が少なく、注目されていなかった頃です。それにもかかわらず山口さんは次の瞬間、両親に「私もジャンプがやりたい！」と言っていたそうです。

小学校4年生になった時、一家は深川から札幌に引っ越してきました。札幌には少年団があり、女子にも門戸を開いていたことから、さっそく入団。そこで待ち受けていたのは厳しい現実でした。男子に混じって数人の女子がいましたが、トレーニングメニューは同じ。山口さんは中学、高校と厳しい練習を耐え抜き、強靱な体力と精神力、さらに高度なテクニックを身に付けていきました。「その頃から40 m級のジャンプ台を使用してバンバン飛んでいましたね。えっ？怖くなかったかって。私の場合、飛んでいる時に怖いと思ったことはないんです。恐怖を感じるのは着地してから。振り返ってジャンプ台を見ると、私、あんな高いところから

長野オリンピックを見たのが、始めるきっかけに！

2014年にロシアのソチで開催される冬季オリンピックで、女子スキージャンプ競技が正式種目として採用されました。

近年、大きな盛り上がりを見せる女子ジャンプにおいて、目覚ましい成長と活躍を続ける学生が札幌大学に在籍しています。

文化学部1年生の山口瑞貴さんがその人。今回は山口さんに日頃の練習や試合についてお聞きしました。



文化学部文化学科1年生
山口 瑞貴さん

STVカップレディーススキージャンプ競技大会優勝の山口瑞貴さんに注目！

飛んだんだと怖くなります」。遥かな夢に向かって、目の前の試合に全力で挑む！

高校卒業後もジャンプを続けるため、札幌大学に入学。スキー部に所属しつつ、日本唯一の女子ジャンプのクラブチーム「RISE」の一員としても名を連ねています。「小川コーチと出会ったこともあり、札幌は私のジャンプを大きく変えてくれました。コーチから指導を受け、ウエイト・トレーニングなどで下半身を強化。アプローチが安定したことによって、踏切や空中姿勢も思い切って臨めるようになりました」。

成長を遂げた山本さんは、今期のメジャーな大会において連続入賞を果たしています。特に2012年12月の「名寄ピヤシリ大会兼北海道新聞杯ジャンプ大会」で2位入賞に続き、2013年1月に開催された「STVカップレディーススキージャンプ競技大会優勝の



[撮影：横井 浩]

ンプ競技大会」では見事優勝の快挙に輝きました。これにより世界ジュニア選手権代表に選出され、2013年の「ノルディック世界ジュニア選手権」の団体戦に出場。初の海外遠征となったその大会において、見事5位入賞を果たしています。

そんな山口さんの今後の目標は、一つひとつの大会で確実に上位入賞すること。国内大会で入賞の常連にならなければ、日本代表として海外の大会には参加できません。さらに海外の大会でも30位以内に入らなければ、その先にある目標を語ることはできないと言います。その目標とは、もちろんオリンピック。「遥かな夢ですが、不可能なことではないと思っています。もっと多くの人に応援していただけるように一層頑張ります」。

女子ジャンプが注目を集め、ますます熱を帯びるなか、山口さんも「自分が活躍して競技全体を盛り上げたい」と、闘志を燃やしていました。

大学の未来は決して暗くない。まして、本学には明るい可能性があふれています！

卒業生の声

大学運営の一切を担う事務のトップとして、多方面で活躍の岡地事務局長は、本学の卒業生にほかなりません。今回は札幌大との出会いを中心に、ご本人の略歴と母校への熱い思いをお聞きしました。

体操を通じて入学、卒業後は職員として採用され…

一人の師との出会いが、私のその後の人生を大きく左右しました。話は高校時代に遡ります。スポーツ好きの私は野球や体操に明け暮れていましたが、高校には体操部がなく、指導してくれる先生も練習場所もなかったのが、札幌大学で練習をしていました。そこで出会ったのが久保田先生です。先生は東京教育大学（現筑波大学）出身でオリンピック候補にもなったほどの方で、その指導や先生の演技をみて、高校卒業後、先生を慕って札幌大学に入学し体操部に入部しました。練習は厳しく、年間の休日は数日で体育館の管理人とまでいわれました。その練習により3年時にインカレに出場。団体2部で6位という成績を挙げました。

卒業を目前に控え、私は見聞を広めようと、英国ロンドンに旅立ちました。確かな計画性もなかったため、留学ではなく遊学ですね。現地でアルバイトしながら過ごしていたんですが、在学時にお世話になった方から「お前の就職先が決まったから、日本に戻って来い」と突然電話がありました。帰国後、札幌大学の面接があり、その結果、事務職員として採用され、教務課（現学生支援オフィス）に配属となり、同時に体操部のコーチに就任し、後進の指導にも当たりました。

さまざまな部署で積んだ経験が貴重な財産に

教職員が経験し、理解すべきです。

入試では受験生、保護者、高校教諭と接したこと、就職ではさまざまな企業の人事担当者や経営者の皆さまと意見交換できたことは私の大きな財産になっています。これは入試担当時に感じたことですが、学生募集のため、説明するのに、マニュアルどおりでは本当の声は届きません。現在、本学の全学生数や敷地面積など、マニュアルに頼らず即答できる教職員は少ないと思います。特に職員は学生と接し、さらに高校や企業、地域との接点に立っています。

そこで私は一つのアイデアを思い浮かべました。教職員が経営や教学について何を聞かれても答えられるように、「札幌大検定」を実施してはどうかと…。これは、学生数や敷地面積など本学に関するあらゆるデータを楽しみながら覚える方法です。例えば、本学の留学生は、どの国から何人くらいですか？とよく質問されます。在学生の通学状況として、自宅・アパート・下宿・寮などについても聞かれます。そこで、出身地域も想像がつきます。また、敷地面積は約25万㎡ですが、それでは想像がつかないと思いますので、札幌ドーム5個分と説明すれば、何となく理解してもらえそうです。

一方、就職支援の担当時に得た教訓は、学生一人ひとりのパーソナリティまで理解し、企業との理想のマッチングをサポートすることです。これも私の経験談ですが、人前では緊張して何も話せなくなる学生が志望先の採用試験に臨み、面接の結果不採用になりました。私はその学生の能力や魅力をわかっただけで、人事担当者に再面接をお願いし学生に対しては何度も模擬面接を行い、学生は素の自分を出し、見事採用されたこともありました。こうしたきめ細かなサポートこそが就職支援の役割だと思います。



教職協働に後援会様のご協力を加え、本学のますますの発展を



札幌大学 事務局長
岡地 功さん

大学運営において、職員には教員と連携し両輪で活動する「教職協働」という考え方が求められています。少子化により大学の未来は決して楽観視はできませんが、本学にはこれまで培ってきたノウハウや人脈など有形無形の財産があります。本学は、学部制から1学群13専攻への変更など大きな改革を推進するため政策室を設置。平成25年度からは、政策室を発展的に解消し「経営企画室」に改め、本学の戦略を考える部署を設置します。これは私の個人的な提言ですが、札幌大は他大学との差別化を図るために、原点に戻るべきだと思います。開学当初は英語、ロシア語など優れた語学教育を特徴に、素晴らしい卒業生を社会に送り出しました。今後、語学を目指す学生は全寮制と留学を必修とし、高い語学力を有した経済人の養成を目指してはどうかと思います。もう一つ実現したいのが、学食の無料化。学生のアンケートによると一日一回の食事と回答する学生や、昼食を摂らない学生が増えています。教職員及び大学で働く関係者が学生食堂で語り合う場として活用できると思います。全学的に一致協力すれば、無料化は決して不可能ではないと思っています。これを実現することによって「食育」そして「健康」にやさしい大学、明るいキャンパス作りなどメリットは計り知れません。今後は是非、検討してほしいテーマの一つですね。

私事で恐縮ですが、3月で退任する運びとなりました。これまでの後援会のご協力には本当に感謝しております。今後は教職協働に後援会も加わっていただき、より強力な布陣で、母校札幌大のますますの発展を目指していただきたいと思います。

お知らせ

平成25年度保護者懇談会及び札幌大学後援会総会の日程・会場は現在調整中です。

札幌大学後援会長 退任のごあいさつ

札幌大学後援会会長の対馬徳昭でございます。日頃より本会の活動にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、突然のお知らせで恐縮ではございますが、私対馬徳昭は本年3月末をもって、平成13年度以降務めてまいりました札幌大学後援会長職を、辞することになりました。関係各位にはご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承ください。また、会長就任中には皆様に大変お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。

なお、後任につきましては、猪狩哲夫氏（事業委員）にお願いすることが、先の札幌大学後援会役員会で了承されましたので、ご報告いたします。

さて、札幌大学後援会の活動は、札幌大学奨学金制度への資金援助、課外活動による遠征費や資格取得等奨励援助金制度への補助、外国人留学生への修学援助など他方面にわたって支援を行っております。これら学生への支援活動の方針は今後も変わることはありませんが、この活動方針に基づく事業計画は、全て札幌大学後援会総会において承認されております。より良い支援策を検討するため、是非多くの会員の皆様に本会の議論に加わっていただくことを願っております。

大学を取り巻く環境は依然厳しい状況ですが、札幌大学は、一昨年の東日本大震災や深刻な経済不況などにより、学業継続の困難な学生や大学進学を断念せざるを得ない受験生を支援するため、各種奨学金制度の拡充を実施しています。本会としても、札幌大学のこのような取組みに対して、可能な限り支援をしていく所存であります。

札幌大学は、地域密着型の大学を目指し、果たすべき役割として「地域貢献」を掲げており、公開講座の開講や施設の開放のほか、NPO法人札幌大学地域スポーツ・文化総合型クラブ「めえろ」などを通じ、より一層の連携と信頼づくりに努めています。

これまで培われてきた札幌大学の歴史と伝統、特色を下支えしていくためにも、札幌大学後援会は少しでもお役に立ちたいと考えております。引き続き会員の皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。



札幌大学後援会長
対馬 徳昭
◆プロフィール
札幌大学経営学部経営学科1974年度卒業
ジャパンケアグループ 代表

オーストラリア短期留学の思い出

オーストラリア留学はとても有意義な3週間でした。シドニーは自然が多くとてもきれいで、まるで別世界のようでした。学校ではオーストラリアの文化や歴史を勉強し、放課後は毎日観光へ出かけました。仲良くなった現地の学生と食事に出かけたりもしました。1人でのホームステイは最初とても不安でしたが、ホストファミリーが週末遊びに連れて行ってくれたり、とても親切にしてくれて、最終日には涙のお別れをしました。英語が苦手な私は会話でつまづくこともたくさんありましたが、私のカタコトの英語を一生懸命聞いてくれて、周りの人たちが優しく助けてくれ、感動しました。そして積極的に英語を勉強しようという気持ちにしてくれました。私はオーストラリアで学んだことを生かし、これからも英語の勉強を頑張ろうと思います。



海外研修者の声

私は以前海外旅行へ行ってから、英語で文化の違う人たちとコミュニケーションが図れることに喜びを知り、英語学科に入学し、そして今回のオーストラリアへの短期留学を決めました。

いくら三週間とはいえ、やはり言葉の壁や文化の違いに戸惑いました。ホストファミリーとの会話は、初め電子辞書を使つての会話でした。英語を学んできたのにちゃんと会話もできず、やりきれない気持ちでいっぱいでした。しかし向こうの文化と習慣に少しでも溶け込んで帰ろうと、積極的にホストファミリーと会話をし、街へ出ました。すると現地の人と会話をする分に支障がなくなり、しっかりと会話をする事が出来るようになっていました。

今回の短期留学で、文化の違いや言葉の壁を恐れず自ら向かっていく事で世界が広がる事を学ぶ事ができ、行ってみて本当に良かったと思っています。



短期留学で得たこと

今回の短期留学で、文化の違いや言葉の壁を恐れず自ら向かっていく事で世界が広がる事を学ぶ事ができ、行ってみて本当に良かったと思っています。



経済学部経済学科1年
館岡 里緒さん



外国語学部英語学科3年
宮川 妃翠さん

資格試験合格者の声



国内旅行業務取扱管理者
合格！

文化学部
文化学科3年生
大久保 佑美さん

地理が苦手な私でも楽しく勉強でき、合格することができました。

私が国内旅行業務取扱管理者の講座を受けたのは、偶然の成り行きでした。3年の夏を前に、就職活動に向けて何かしたいと思い、能力開発センターの前でパンフレットを手に取りました。一目見て、「旅行」なら好きだし、楽しそうと思い受講することになりました。

実は、私は地理が苦手で、47都道府県さえ頭に入っていないでした。しかし授業を受けてみると、とても楽しく勉強することができました。講師の先生の解説は、笑いを誘いながらインパクトがあり、心に残るものでした。地理の自習プリントや確認テストをしながら、知識を定着させることができました。試験の直前には「ここまでやってきたら落ちたくない」という一心で、自習室に残り温泉や特産品の暗記をしました。

旅行が好きな人や、この職種に興味のある人なら、「やる気」さえあれば合格できると思います。先生に質問したり、友達と問題を出し合ったり、楽しみながら勉強して、自分のレベルアップを目指してみてください。



受講料の40%をキャッシュバック！ ～資格取得等奨励援助金制度があります～

講座終了直後の資格試験に合格した人、公務員講座において、出席良好で模擬試験等の成績が良好の人達に受講料の40%程度をキャッシュバックします。ぜひこの制度を活用して積極的にスキルアップを図ってください！

また、受講のメリットとして①専門学校と比較して受講料が1/2～1/5であること、②大学内で受講ができる、③専任プロ講師が直接指導する、④親切・丁寧に指導する、⑤個別指導、再受講などのフォローアップにより合格率が高い、などがあげられます。

編集後記

札幌大学は4月から教育組織と事務局組織が変わります。次号の「後援会だより」ではこのお知らせをしたいと考えております。また、4面の「札幌大学後援会長退任のご挨拶」に述べておりますように、この度次年度の札幌大学後援会総会（開催日未定）をもちまして、対馬後援会長退任の運びとなりました。長い間本当にありがとうございました。札幌大学後援会は大学と保護者の方々と結び、強い絆で成り立っています。「後援会だより」はその橋渡しの使命を担って、今後も様々な情報を提供したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。